

『パリ3区の遺産相続人』 原題: MY OLD LADY 2014

映画批評



© 2014 Deux Chevaux Inc. and British Broadcasting Corporation. All Rights Reserved.

『パリ3区の遺産相続人』 ～予想を裏切る深く激しい人間ドラマ～ 藤田久美子 (白梅学園大学非常勤講師)

この映画は、タイトルの通り、パリの町を背景にして、パリ3区の高級アパートマンでの出来事を描いていく。しかしこの映画の特徴は、最初はパリを舞台にした洒落たコメディの様相を漂わせながら、中盤から後半にかけて、俄然、人々の激しい感情が交錯しあう深い人間ドラマとなっていくという、観る者の大方の予想を裏切る展開であろう。

主人公は、3回の離婚歴があるアメリカ人の中年男、マティアス(ケヴィン・クライン)である。彼は、父の死後に相続したパリのマレ地区にあるアパートマンの様子を調べるため、ニューヨークから何十年かぶりにパリにやってくる。子どももなく、家を処分しても借金が残っただけという、いわば負け組の彼にとって、疎遠であった父の残した家とはいっても、このパリ3区のアパートマンは、売れば相当な額になりそうであった。彼は当然空き家だと思ってこのアパートマンに行ってみるが、驚いたことに、この家には、マティルド・ジラール(マギー・スミス)という名のイギリス人女性が住んでいた。この高齢の女性は一体何者なのか？何故ここに住んでいるのか？彼の頭の中は疑問でいっぱいになるが、彼女の話聞くうちに、彼は意外な事実を知ることになる。



この 92 歳だというマティルドに聞いたフランスの伝統的な不動産売買制度「ヴィアジェ」は、マティアスの度肝を抜くものだった。つまりこの制度によって、マティアスは、元の所有者であるマティルドが死亡しなければ、このアパートマンを売ることは出来ず、しかもそれまで毎月 2400 ユーロを年金のように彼女に払い続けなければならないというのだ。すぐにこのアパートマンを売って金を手に入れられると思っていたマティアスは、すっかり思惑がはずれ、暫くこの家に住むことを余儀なくされて憂鬱になる。さらに、その夜遅く仕事から帰宅したマティルドの娘のクロエ(クリスティン・スコット・トーマス)と鉢合わせし、この中年の独身女性とも、トイレを共同で使わなくてはならない生活が始まる。

この、最初のあたりから中盤までは、マティアスとマティルドの掛け合いが面白く、洒落た、都会的なコメディのように話が進んでいく。マティアスはアメリカ人らしいジョークを飛ばすし、マティルドの言葉は、長くフランスに住む高齢のイギリス人らしい皮肉に満ちている。しかし、ケヴィン・クラインとマギー・スミスとの間で交わされる、こうした優秀なコメディ風の会話を楽しんでいるうちに、我々は次第に、のっぴきならない、家族間の憎しみが露わになる、深く、激しい心理劇に引きずり込まれていくのだ。



この転回は、次のようにして始まる。金のないマティアスは、少しでも金を手に入れようと、アパートマンの部屋を物色して、使われていない椅子やテーブル等を古物商に持って行っては金に換えるのだが、そうするうちに、ある写真を見つける。それは、若き日の彼の父とマティルドが寄り添う写真であり、そこには「あなたに愛されないのなら、誰の愛もいらない」と書いてあった。マティアスはその写真をマティルドに突き付けて、彼女に事情を聞かせてくれと迫ると、彼女は、マティアスの父と愛し合っていたのだと、彼にとってショ

ツキグな真実を語る。その後彼は、暫く酒を断っていたのに、外に出て、浴びるほど酒を飲んで帰ってくる。妻や子のことなどおかまいなく、パリでマティルドとの愛の時を過ごした父のことを、彼は今初めて知り、そのショックに打ちのめされる。そして、アパートマンに帰った彼は、クロエに、母親が自分の目の前で自殺したことを告白する。このことを知ったマティルドは、「マティアスの母は病死だったと聞いていたのに…」と言って大変なショックを受ける。



クロエは、すでに 40 代半ばを過ぎた独身で、パリの語学学校で英語を教えているが、母親の不倫の過去を薄々知りながら、自分も教え子である妻子持ちの男性と不倫関係にある。そして、不倫を憎みながらも、その男との関係を断ち切れずにいることに、どうしようもないジレンマを感じている。マティアスから、自分の母の存在が、マティアスの母の自殺の原因であることを聞かされ、自分の疎外感、哀しみを、マティアスのそれと重ねて、彼にいたく同情し、その夜、二人は結ばれる。

マティルドとマティアスの父との不倫は、確かに周りの人々を多くの不幸に落としたことは否定できない。マティアスもクロエも、ともに両親の不仲に苦しんだし、マティアスの母は遂に自殺までした。マティアスはその後父とずっと疎遠になり、人間としての満足のいく心理的成長を妨げられたし、クロエとて同様であった。マティアスが 3 度もの結婚に失敗したのも、クロエが結婚できずに不倫に苦しむのも、親の不倫による家庭の崩壊が原因の一端であろう。マティアスもクロエも、それぞれ父親と母親の行為を憎み、マティルドに憎しみの矛先を向けるのだが、マティルドは、“それでは私はどうしたらよかったの？私はどうにもできなかったのよ！”と言って、二人に許しを請う。そしてこのマティルドの言葉は真実であろう。人は激しい情熱に煽られているときに、冷静な判断などできないものだ。自分には夫と娘があり、相手の男にも家族があるのだということを、理性ではわかりながらも、相手の妻の死の時まで、その関係を断つことはできなかったのだ。マティアスの母の死が、夫の不倫に絶望しての自殺であったとは！今初めて、マティルドは、自分が情熱に任せて行ってきたことが如何にひどいことであったかを知って、いわば神の罰を感じたのであろう。

しかし、人は憎しみをあまりに長く持ち続けることなどできないものだ。恨み、つらみも、それを糧にして人生を渡っていくことなどできない。マティアスもクロエも同様であった。ちょうどシェイクスピア悲劇の大団円のように、この映画にも、秀逸な終わりが待っている。父とマティルドへの憎しみ、恨みを思う存分吐き出した後には、気が付いてみると、マティアスとクロエの心の中には、同じように辛い経験をしたお互いへの温かい愛情が生まれていた。妻子ある男との不倫関係を、苦しい思いをしながら断ち切ったクロエに対して、マティアスは同情だけではなく、女性としての魅力を感じ始めている。人間としての苦しみを知った女性が、男性にとって魅力的でないはずはないからだ。クロエとて同様であろう。もうすでに 50 歳に近く、自分の女性としての魅力に自信が持てないクロエに、マティアスの語る言葉がいい。“君は美しいよ。花は散り際が美しいんだ。”



マティアスは、アパートマンをヴィアジェ込みで買い取りたいと申し出ていたビジネスマンとの取引をやめにする。それは、この男が、アパートマンを取り壊して近代的なホテルを建てるつもりであることをクロエから聞き、家族の歴史と想いが宿っているこの家を残したいという彼女の心を理解したからだ。さらに、マティアスは、マティルドが父と付き合っている間にクロエが生まれたという事実疑問を抱き、彼女と自分がもしかして異母兄妹ではないかと思い、医者へ遺伝子鑑定を頼みもする。二人は兄妹ではないと証明され、その後は未来に向かって、年老いたマティルドと共に、人生の後半を明るく生きていくのだろうと想像させて、映画は終わる。

マティアスは、自分と母に真に関わることもせずずっと疎遠であった父について、どんな人間であったかということにも無関心だったが、今度の事で、父への新たな憎しみが生まれたと同時に、自分の知らなかった父の一面を知ることにもなった。それは、マティルドの深く、激しい愛を勝ち得た彼の人間性であった。父は、マティアスにとって憎むべき男であったが、同時に妻以外の女性から愛されるだけの魅力を持った男でもあった。今クロエと新しい人生を歩み始めようとするマティアスは、父とマティルドとの過去を許し、ある意味で認めることが出来るようになるほど人間的に成長した。クロエも母との確執を、マティアスとの愛に生きることで、越えていくことができるであろう。人間とは、決して完璧な存在ではなく、大きな、取り返しのつかない間違いを犯すが、また同時に、幾つになっても、新たな自分を取り戻すことができるものである。

洒落た感じのコメディ風の会話劇から始まって、一気に家族間の憎悪の感情が爆発する悲劇へと表情を変え、最後はまた、憎んだ相手への“赦し”が支配する穏やかな結末へと向かうこの映画は、3人の優秀な俳優の確かな演技に支えられて、滋味豊かな、大人の鑑賞に堪える映画に仕上がった。



【スタッフ・キャスト等】

監督 イスラエル・ホロヴィッツ

出演 ケヴィン・クライン、マギー・スミス、クリスティン・スコット・トーマス、ドミニク・ビノン

2014年/アメリカ・イギリス・フランス合作/107分/カラー/シネマスコープ/ドルビーデジタル

©2014 Deux Chevaux Inc. and British Broadcasting Corporation. All Rights Reserved

原題:MY OLD LADY 提供:熱海美術館、ミッドシップ、ConFrog 配給:熱海美術館 協力:サム・インター

【公開情報】

2015年11月14日より11月14日(土)より、Bunkamura ル・シネマほか全国ロードショー
配給:熱海美術館

© 2014 Deux Chevaux Inc. and British Broadcasting Corporation. All Rights Reserved.

予告編 <http://souzokunin-movie.com/>

イスラエル・ホロヴィッツ監督:『いちご白書』の脚本家で、『パリ3区の遺産相続人』は初監督作品。

